

2021年11月28日（降臨節第1主日C年）牧師メッセージ

「さあ！冒険へ！」

（ルカによる福音書 21:25-31）

司祭ヨセフ太田信三

教会は新しい暦を迎え、降臨節、アドヴェントに入りました。さあ、今日から冒険のはじまりです！と言っても、「どういうこと？」と思われるかもしれませんがね。実は、アドベントは冒険の期節なのです。アドヴェントという言葉はもともとアドヴェントゥスというラテン語で、アドヴェンチャーという英語の語源です。アドヴェンチャー、冒険のことです。何故アドヴェントがアドヴェンチャーになったのか。それは、クリスマスが冒険の出来事だからです。アドヴェントゥスというラテン語は「来る」「到来する」という意味です。神の子が人の子として天から「降って来る」。これがクリスマスの出来事です。それゆえ、この「来る」という言葉がこの期節の呼び名となりました。他でもない、神が冒険をされたのです。「神の子」が聖霊によってマリアに宿り、「人の子」として生まれる。神がわたしたちと同じ肉体を持ち、わたしたちと全く同じ人として生きる。神様のご自分のそれまでのあり方を壊してこの世界に介入してくださった。イエス・キリストの誕生とは、神が冒険をされた出来事なのです。さらに、冒険をしたのは神様だけではありません。クリスマスの物語に欠かせない人々、マリア、ヨセフ、羊飼いや博士たち。これらの人々もまた、冒険の先で赤ちゃんイエス様と出会うのです。天使の御告げを信じたマリア。婚約者が聖霊によって妊娠したなどということを知ったヨセフ。とんでもない冒険をしたのです。危機に出会い、自分自身のそれまでのあり方、殻を破って、新しい価値観、新しい世界に飛び込む。それが冒険です。到底信じられないようなことに出会い葛藤して、自分を壊されることで、「信じます」と言った人々によってこそ、イエス様はお生まれになるのです。

信じる、それは言うなれば「賭け」です。しかし、信じる人々にクリスマスは訪れます。だからこそ、今日からの四週間、わたしたちも冒険に出ましょう。神がこの世に降った。この信じられない出来事を信じる者になるための冒険です。自分の殻はなんだろうか。何がわたしをみ言葉から、信じることから遠ざけているだろうか。いつもより明かりを暗くして、アドベントクランツのろうそくを見つめながら、照らされながら顧みましょう。そして、来るべき日、頑なな心ではなく、柔らかなベッドを自分の中に用意して、そこに赤ちゃんイエスさまをお迎えしましょう。

今日から C 年です。そのはじめの今日の福音は終末についての箇所でした。終末は恐ろしい時です。しかし、先日も申し上げましたが、それは救いの時です。主イエスと顔と顔とを合わせることができる日です。終末は神様からの究極の

プレゼントなのです。わたしたちには世の終わりまでも希望が用意されている、ということです。けれども、それを信じることもまた本当に難しいなあ、とわたしなどは思ってしまいます。神が希望を与えてくださっていると言われても、わたしたちは目の前のできごとに絶望し、希望を失ってしまうからです。だからこそ、主イエスは今日の福音で言われます。「いちじくの木や他の木々を見て季節の到来を知るように、注意深くしていなさい」と。わたしたちが注意深くいるなら、希望が失われることはないからです。なぜなら、自ら危険を犯し、この世に降って来てくださった神は、今、この時にもこの世界で働かれています、必ずわたしたちを守り、導いてくださるからです。神は今、この瞬間にもわたしたちを見つめてくださっている。そのことを信じて、注意深くいるならば、今注がれている神の恵みを感じることができるのです。それを感じて生きるなら、あなた方はいつまでも神のみ守りの中を歩むことができます、と主イエスは言われています。今この時にも、恵みが注がれている、それを保証しているのが、クリスマスの出来事です。神が自ら危険を犯してまで、冒険をしてまで、わたしたちに救い主を送ってくださった出来事こそ、今も必ずその神がわたしたちを助けてくださることを保証しているのです。自ら危険を犯してまでわたしたちを助けてくださる神さまは、世の終わりまでもわたしたちを助けてくださる。主イエスのご降誕の出来事を信じるなら、この絶えることのない希望がわたしたちの内に灯ります。

今日、アドベントクランツの一本目のロウソクが灯されました。これは、希望の光です。今日、わたしたちはあらためて、このロウソクの灯りに照らされて、神からの希望をいただきましょう。その光に照らされて、この期節を過ごしましょう。わたしたちの日々には神さまの恵みが、希望が満ち満ちている。注意深くして、それを感じましょう。その神の恵みを日々感じて生きるなら、わたしたちはいつまでも神の愛と希望のなかを歩むことができます。愛と希望が絶えない！それはなんと素晴らしく嬉しい人生でしょうか。そんな素敵な人生が、主イエスの御降誕を信じるものには約束されています。

さあ、今日からの四週間、わたしたちも冒険に出ましょう。信じる者になるための冒険です。主イエスとの出会いの冒険です。自分や周囲を注意深く見つめ、日々、「今」も注がれている神の恵みをあらためて感じて、希望に照らされてこの一年をはじめましょう。絶えることのない希望の光で頑なな心を壊していただいて、クリスマスを迎えるその日、わたしたち皆が砕かれた心で、赤ちゃんイエス様をお迎えすることができますように。今日はひよこ教室のために祈る主日です。ひよこ教室の先生方が来てくださっています。平日なので、皆さんはあまりご覧になることは無いかもしれませんが、本当に、本当に大切なお働きをなさっておられます。何より、コロナで来られなかった子どもたちが、再開とともに、教会に命を吹き込んでくれたように、心から感じます。クリスマスに備える時にあって、子どもたちの存在の大切さをあらためて感じ、携わっておられる先

生方、そのお働きに心から感謝して、より一層の神様の祝福と導きをお祈りして、この礼拝をおささげしてまいりましょう。